

# 第194回法泉院音楽の館定期演奏会

[Auftakt]

W.A.MOZART Bass-Arie[Per questa bella mano]  
mit obligatem Kontrabass und Klavier

KontrabassObligatem Satori-Keigo HASEGAWA

今、世界最高のドイツリート歌手ディートリヒ・ヘンシエルのバリトンがシューベルトの遺作冬の旅を歌い、日本ドイツリート協会会長の岡原慎也が、一瞬にして歌曲集その場面の情景を描く至福の最高芸術!

## F.シューベルト「冬の旅」全曲

巨匠フィツシャーニティースカウの後継者  
オペラ、リート、現代音楽まで幅広く活躍する名バリトン  
ディートリヒ・ヘンシエル  
Dietrich Henschel



1990年フーゴ・ヴォルフ・コンクール入賞。ミュンヘン・ビエンナーレでデビュー後、リヨン歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラで国際的キャリアをスタート。

以降、ミュンヘン、アムステルダム、ブリュッセル、リスボン、マドリッド、ジュネーブ、パリなどの歌劇場、ザルツブルク、エクサン・プロヴァンス、フィレンツェなどの音楽祭に出演多数。アーノクール、ガーティナー、ヘレヴェツェ、ヤーコプス、エツェンバツハ、リリング、クリスティ、ベレンコ、ナガノ、メータ、ドホナーニ、アルブレヒト、ラトル、ティーレマンなどと共演。

リート歌手としての評価も極めて高く、アーヴィン・ゲージ、フリッツ・シュヴィングハンマー、ヘルムート・ドイチュ、岡原慎也らのピアニストと共演。

近年は、名歌曲の豊かな文学的内容を視覚化させようとのプロジェクトに取り組み、2010年シューベルト『白鳥の歌』舞台版にモネ劇場、アン・テア・ウィーン劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパーなどで出演。

2013年、映像プロジェクト『Irrsal-Forbidden Prayers (狂気の禁じられた祈禱者たち)』をトーンハル・テュツセルドルフで初演、メーリケの詩によるヴォルフ歌曲の濃密な音楽世界が話題を呼んでいる。直近の映像プロジェクト『WUNDERHORN (不思議な角笛)』は、マラー「子供の不思議な角笛」全曲コンサートをテ・ドーレン、BBC響、モネ劇場と協同で進め、2016年に初演された。

岡原 慎也 日本屈指のドイツ・ロマン派ピアニスト

Shinya Okahara



4才よりピアノを始める。東京芸術大学音楽学部付属高校を経て東京芸術大学に入学、在学中より演奏活動始める。

同大学卒業後、ドイツに留学。ベルリン芸術大学、ミュンヘン音楽大学マスタークラスにおいて研鑽を積み、FM放送に出演等、ドイツ各地で演奏をする。帰国後、ベートーベンのピアノソナタ全曲演奏や各地でのリサイタル、コンチエルト等で高評を博す一方、シューベルトやヴォルフの歌曲の全曲演奏など、ドイツ歌曲や室内楽のパートナーとしても精力的な活動を展開し、1994年にはヘルマン・フライ、95年にはテオ・アダムと共演を果たし、NHK芸術劇場で放映される。96年にはディートリヒ・ヘンシエルの初来日公演を自らプロデュースし、97年のシューベルトイヤー、99年のR.シュトラウスイヤーの全国ツアーを成功させる。

その活動は国内のみにとどまらず、チェスキー・クルムロフ音楽祭、リヒャルト・シュトラウス音楽祭、そしてグラン・カナリア音楽祭などに招待され、ソリスト、歌曲のパートナー、室内楽奏者として幅広く活動している。

また、2006年春にはチェコにおいて指揮者としてもデビュー、ウィーンフィルの主力メンバーからなるシュタイネ・カルテットとザルツブルク、ウィーン、大阪でのツアーも成功させる。また、ヘンシエル、同じくバリトンのシュテファン・ゲンツ、チェコのマルティヌー・カルテットなど、国内外で共演を重ねる海外アーティストも多い。

ヘンシエル、ヘルムート・ドイチュらと隔年で開催する「ドイツ歌曲解釈の夏期講習」はドイツ、オーストリア、日本で計7回開催され、多くの若い音楽家たちが巣立っている。

1993年京都音楽賞、96年大阪文化祭賞本賞、そして2001年には音楽クリティッククラブ賞、2012年には第66回文化庁芸術祭優秀賞を受賞。これまでに20枚以上のCDがリリースされている。現在、大阪音楽大学特別教授・名誉教授。日本ドイツリート協会会長。ポラリス国際音楽祭音楽監督。

## [教信寺法泉院奏楽堂]

- ※2023年10月26日(木)午後2時開演
- ※お席のご予約Tel079-425-1350
- ※会費1階席3,000円(茶菓子付き)
- ※2階ロイヤルボックス席5,000円

